

事業検証シート

基本目標番号	1	施策番号	1	基本事業番号	3	計画番号	13
事業名	とわだ産品の情報発信					区分	継続
目的	十和田市産食材やそれらを活用した加工品の特長について、消費者及び首都圏をはじめとする企業、店舗への情報発信や、県内外での販売促進活動により、とわだ産品の認知度向上と販売拡大を図る。						
手段	メディアに対する宣伝活動、各種イベントへの参加、SNSの活用などにより、とわだ産品の魅力発信を行うとともに、首都圏の大手百貨店や量販店でのトップセールス及び商談会への出展により、新規取引や取扱の継続に取り組む。						
事業開始年度	平成22	年度		事業終了年度		年度	
成果指標				現状値の推移			目標値
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
①とわだ産品の全国系メディアへの露出件数 ②SNS(Facebook、Instagram)のフォロワー数				①21件 ②2,883人	①24件 ②3,705人	①22件 ②4,665人	①24件 ②3,200人
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
事業費 (単位: 千円)	5,343		6,806		6,068		
備考							
事業実績	実施内容						
	とわだ産品の認知度向上のため、各種情報発信事業を実施した。 ①②は機会を捉え、各種事業や市内の食の情報に掲載した。 ③首都圏バイヤーや料理研究家などを招へいし、園地・圃場の紹介を行った。 ④県との連絡を取り合い、トップセールスに向けて連携を図った。 ⑤各種商談会へ市内事業者が出展し、とわだ産品の認知度拡大が図られた。 ⑥各物産展主催者からの案内に基づき、市内事業者へ周知を行い、出展を促した。 ⑦⑧十和田奥入瀬観光大使りんごちゃんの知名度を活かし、当市及びとわだ産品の情報発信を実施した。 ⑨料理系YouTuberに依頼し、YouTubeによる動画を発信した。						
	事業実績(成果指標以外)			令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	①Facebookへの投稿 ②Instagramへの投稿 ③産地招聘 来訪者数 ④県主催トップセールス ⑤全国規模商談会への出展 ⑥県内物産展出展 ⑦十和田奥入瀬観光大使活用(プロモーション活動) ⑧十和田奥入瀬観光大使活用(SNS発信) ⑨料理YouTuberによる発信			①124件 ②65件 ③4人 ④1件 ⑤2者 ⑥13者 ⑦0回 ⑧25回 ⑨4件	①94件 ②91件 ③8人 ④0件 ⑤2者 ⑥28者 ⑦2回 ⑧43回 ⑨1件	①68件 ②33件 ③8人 ④0件 ⑤5者 ⑥28者 ⑦2回 ⑧46回 ⑨1件	
総括評価	達成状況	おおむね達成					
	いずれの事業も継続した取組により全国系メディアの他、各種マスコミによる報道が行われ、当市の認知度向上に寄与することができた。 ①SNSについて、Facebookには各種事業の紹介を中心に掲載するとともに、Instagramは市内飲食店舗のメニューを毎月継続して掲載し、専門知識を有する事業者から運用改善に係るアドバイスを得て、効果的な動画及び広告の配信を実施した。 ②フォロワー数は令和2年度末現在の1,888人から4,665人に増え周知拡大ができた。 ・首都圏からのバイヤーやシェフの他料理研究家を十和田市へ招へいし、産地紹介をしたことで、当市食材の理解と愛着を深めるとともに、その後の取引に繋がった。 ・トップセールス(市長訪問)について、令和3年度は実現できたものの、その後は日程等の調整が整わず実現には至っていないが、青森県フェアへの参画で十和田市産食材等をPRすることができた。 ・コロナの収束に伴い、商談会や物産展の案内が増えてきていることから、積極的に事業者へ紹介を行った。 ・十和田奥入瀬観光大使であるりんごちゃんを活用することで、発信力が高まり、当市に関する露出が増加した。 ・料理YouTuberに十和田市産食材の提供を行い、動画の制作及び配信を行ってもらうことにより、食材の魅力を伝え、動画再生回数は期待どおりの実績となった。						
今後の方向性	重点化を図る						
理由	・料理YouTuberを活用した発信は、令和3年度から3年間実施し、動画再生回数は期待どおりとなり、十和田市産食材の認知度向上に寄与したと判断し終了とする。 ・今後は、十和田市産野菜を「薬膳」という体調への作用など、健康への貢献の視点から捉え、その効能、調理・活用方法を明確にし、新たな強み・価値を持たせ、訴求力を高める事業を展開する。 ・そのほかの事業は継続して取り組むことにより、引き続きとわだ産品の周知を図る。						
重点化内容 または 改善内容	・令和5年度において、薬膳料理で高名で影響力のある料理研究家を産地招へいし、薬膳として効能がある野菜が当市にあると評された。 ・十和田市産野菜のブランド化、宣伝、普及に取り組むにあたり、今後は、新たな強み・価値を発掘して魅力を高め、買い手に訴えかける事業を展開する。 ・薬膳料理活用事業						



令和6年8月7日（水）
令和6年度第2回外部評価委員会



とわだ産品の情報発信



農林商工部 とわだ産品販売戦略課



目次

- 1. 事業概要…目的・手段・事業名 . . . 3 P
- 2. 事業内容、取組状況 4～9 P
- 3. 課題と今後の方向性 10 P
- 4. 事前質問への回答 11～18 P

事業概要

■目的

十和田市産食材やそれらを活用した加工品の特長について、消費者及び首都圏をはじめとする企業、店舗への情報発信や、県内外での販売促進活動により、とわだ産品の認知度向上と販売拡大を図る。

■手段

メディアに対する宣伝活動、各種イベントへの参加、SNSの活用などにより、とわだ産品の魅力発信を行うとともに、首都圏の大手百貨店や量販店でのトップセールス及び商談会への出展により、新規取引や取扱の継続に取り組む。

■事業名（事業実績参照。）

- ①Facebook・Instagramへの投稿
- ②飲食店シェフ、バイヤー、野菜ソムリエの産地招へい
- ③県主催トップセールス（大手量販店での青森県フェア参画）
- ④全国規模商談会・県内物産展への出展
- ⑤十和田奥入瀬観光大使活用（プロモーション活動・SNS発信）
- ⑥料理Youtuberによる発信

①Facebook・Instagramへの投稿

■事業名

食と農の情報発信事業（SNS）

■事業内容

とわだ産品の認知度向上及び販売促進のため、市公式Facebook（フェイスブック）やInstagram（インスタグラム）を活用した情報発信を実施している。（R5事業費：217千円）

■事業実績

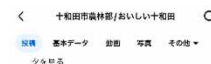
区分	SNS	R3	R4	R5
投稿件数	Facebook	124	94	68
	Instagram	65	91	33
フォロワー数	Facebook	1,074	1,223	1,336
	Instagram	1,809	2,482	3,329



Instagram



Facebook



②飲食店シェフ、バイヤー、 野菜ソムリエの産地招へい

■事業内容

首都圏等の飲食店や青果取扱店等の関係者を招へいし、圃場や生産者、加工品製造事業者への紹介を行うことで、本市産食材の販路拡大、ブランド力の向上及び定着を図ることを目的とする。

野菜ソムリエ関係の産地招聘に係る参加者の募集にあたっては、市が平成22年10月に自治体パートナー制度に登録した日本野菜ソムリエ協会のネットワークを活用する。（R5事業費：973千円）

■事業実績

（単位：人）

区分	R 3	R 4	R 5
野菜ソムリエ関係	3	4	5
その他	1	4	3



有名シェフ産地見学



バイヤー産地見学

③県主催 トップセールス (大手量販店での青森県フェア参画)

■事業内容

首都圏や西日本などの量販店で開催される青森県フェアにおいて、青森県や他市町村と連携した市長のトップセールスにより製品のPR、販路拡大を図る。

■事業実績

(単位：回)

フェア会場	R 3	R 4	R 5
イオンスタイル板橋店	1	0	0



R元年ステージイベント



R 3 年売り場での様子

◀イオンスタイル板橋店
での様子

④全国規模商談会・県内物産展への出展

■事業内容

とわだ産品のPR、販売拡大のため、全国規模商談会への出展支援や、県内外の物産展への周知を行い出展を促す。

【とわだ産品販路開拓支援事業】

十和田市産農林水産物やその加工品の販路拡大及び新規販路開拓を目的に、市内事業者が国内外で開催される商談会等へ出展する費用の一部を補助する。（補助率1/2、上限額300千円）（R5事業費：206千円）

■事業実績

区分	エリア	R3	R4	R5
商談会出展者数	全国規模	2	2	5
	その他	7	14	13
取引契約数		16	6	22
物産展出展者数	県内	13	28	28
	その他	1	3	2



R4スーパーマーケット・
トレードショーの様子

⑤十和田奥入瀬観光大使活用事業 (プロモーション活動・情報発信)

■事業内容・目的

本市出身で、十和田奥入瀬観光大使の有名芸能人「りんごちゃん」の知名度を活かし、とわだ産品及び観光や食のPRを実施する。

これにより、全国系メディア、SNSなどによる露出の機会を創出し、十和田市及びとわだ産品の認知度のさらなる向上を図る。

(R5事業費：4,069千円)

■事業実績

(単位：件)

区分	R 3	R 4	R 5
首都圏等での十和田市の食や観光のプロモーション活動	中止	2	3
全国系メディア露出	1	5	7
りんごちゃん公式Instagramからの情報発信	25	43	46
十和田市主催、共催事業等への参加	中止	2	3



R2観光大使就任式



R5. 6月号広報とわだ表紙
(桜流鎧馬露払い)

⑥料理YouTuberによる発信

■事業名

YouTuber活用事業

■事業内容

料理動画で知名度のあるYouTuberへ十和田市産食材を提供し、その食材を調理し食べる様子を自身のYouTubeチャンネルへ投稿してもらうことでとわだ産品のPRを図る。（R5事業費：517千円）

■事業実績

区分	R 3	R 4	R 5
PR食材	ガーリックポーク、 十和田湖和牛、 ニンニク、長いも、 ごぼう、しいたけ、 りんご、 奥入瀬ビール、 八甲田おろし	ガーリックポーク、 ニンニク、 長いも、 ごぼう、 奥入瀬ビール	ガーリックポーク、 ニンニク、 長いも、ごぼう、 長ねぎ、 奥入瀬ビール、 源タレ
投稿回数	4	1	1
再生回数	80, 548	119, 496	286, 927



YouTuber 投稿動画

【課題と今後の方向性】

課題

農産物に「十和田市産」の名を付けて売ることができる場面が限られるため、「十和田市」のイメージから連想される情報の浸透には多くの時間を要する。

地域（自治体）の魅力度を数値化する指標である「地域ブランド調査」において、当市の産品想起率（食品）が伸び悩んでいる。

今後の方向性

農業産出額東北6位を誇る本市の豊かな環境・土壌や農業への誠実な取組から生み出されるとわだ産品の特徴や強みを継続して発信し、とわだ産品の認知度向上・イメージアップを図る。

1. とわだ産品を広く周知するため、ホームページ、SNSなどを活用した情報発信を行う。
2. 首都圏における販路拡大に向け、創意工夫を凝らした効果的な消費宣伝活動を行う。
3. 全国規模商談会や各種イベントへの出展、ふるさと納税返礼品を通じて豊富なとわだ産品を紹介し、販路拡大活動に努める。
4. 多様なマスメディアや手段を活用し、全国的知名度の向上を目指した宣伝活動を行う。

【事前質問への回答】

Q 1 : 予算はどのように使われたのか。内訳を教えてください。

A 1 : 令和5年度実績は次のとおり。

①食と農の情報発信事業 : SNS動画広告発信業務委託 : 216,614円

②県内外飲食店・バイヤー、野菜ソムリエの産地招聘 : 973,400円

■生産者・産地訪問先謝礼… : 57,000円
(3,000円×13人、8,000円×1人、10,000円×1人(各1回))

■飲食店・バイヤー等の旅費 : 366,400円 (45,800円×8人×1回)

■野菜ソムリエ関係者募集等に係る業務委託 : 550,000円

③県主催トップセールス : 0円

④とわだ産品販路開拓支援事業 : 206,000円 (■補助金 : 1者)

(A 1 の続き)

⑤十和田奥入瀬観光大使活用事業：4,068,799円

■観光大使体験料等謝礼：農業・観光素材体験…82,400円（4件）

■観光大使名刺・PR用産品他消耗品……………59,951円（5件）

■PR用産品送料……………1,373円（1件）

■観光大使PR等活用業務委託……………3,300,000円（1件）

■秋まつりステージカー運行業務委託……………625,075円（1件）

⑥料理 YouTuber活用：516,856円

■動画作成謝礼……500,000円（1件）

■動画撮影用食材…11,436円（3件）

■食材送料……………5,420円（3件）

Q 2 : 首都圏からバイヤーやシェフらを招へいし、産地紹介をしたことで、
 当市食材の理解と愛着を深めるとともに、その後の取引につながった、
 とあるが、どんな産品をどの程度の件数、量を取り引きできたのか。

A 2 : 把握できている取引実績は次のとおり。（東京都内）

事業者	R 3	R 4	R 5
飲食店	合豆（ごど） 1パック ぶどうジュース 10本 冷凍カシス 3袋 取引実績：3回	にんにく 3kg 長いも 11kg ごぼう 2袋 長ねぎ 1袋 黒にんにく 7袋 アピオス 1袋 等 取引実績：6回	にんにく 6kg 長いも 5袋 なんばんみそ 3個 リンゴジュース 5箱 黒にんにく 1袋 アピオス 3袋 等 取引実績：3回
青果店	カステルフランコ 25個 シャドークイーン 20袋 ブッキーニ 1本 ノーザンルビー 50袋 取引実績：2回	カステルフランコ 40個 カラフル人参 10袋 シャドークイーン 70袋 ノーザンルビー 130袋 等 取引実績：5回	—
産直施設	—	にんにく 7kg 長いも 15kg きたあかり 8袋 コリンキー 31袋 トマト 24袋 レタス 4袋 等 取引実績：24回	にんにく 32kg 長いも 123kg きたあかり 48袋 コリンキー 26袋 トマト 10袋 レタス 5袋 等 取引実績：38回

Q 3 : YouTuberに市産食材を提供し、動画の制作及び配信を行ってもらうことにより、食材の魅力を伝え、動画再生回数は期待通りの実績とあるが、どんな食材を提供し、何が作られ、何回再生されたのか。

Q 4 : YouTuberによる動画再生回数を令和3年度から年度毎に教えてほしい。

A 3・4 : 9ページ参照。

作られた料理（例）

R3 : ごぼう入りバラ焼き、長いも・シイタケのBBQ（冬キャンプ）

R4 : 長いも鉄板焼き、トンテキ、ごぼうの唐揚げ

R5 : かつ丼、ねぎ豚そば、長いもステーキ、ねぎ焼きおろし

Q 5 : 高名な料理研究家に薬膳として効能がある野菜があると評価された、とあるが、誰に何の野菜が評価されたのか。それは十和田市独特の野菜か。

Q 6 : 薬膳料理活用事業の具体的計画方策を教えてください。

A 5・6 : 東洋美食薬膳協会理事長 谷口 ももよ 氏

昨年9月の産地招へい事業により、当市へ招へいし、十和田市産主要4野菜であるにんにくやごぼう、長いもなどの他、夕顔やヒメマスに興味を持たれた。

令和6年度は、薬膳料理の観点から十和田市の食材についてその効能・作用などの整理と、それらの食材を活用したテスト用のレシピ開発を薬膳料理専門家に依頼している。

その結果を受けて、今後取り組む場合は、セミナーや料理教室を実施し、飲食店事業者はもちろん、一般家庭でも活用できるコアな人材を育成し、取組を広めることにより、十和田市産野菜が新たな強み・価値を持ち、訴求力を高めていく。

Q 7 : 市産野菜のブランド化などに取り組む、とあるが、誰が作りどこに出荷している野菜を指しているのか。農協へ系統出荷されているものが多いと推測するが、それらは十和田市産として売り込まれているのか。

A 7 : 市産野菜のブランド化とは、販売ルートである農協、卸売市場、産直、EC等すべてを含む市全体のブランディングを指すものである。

本市の豊かな自然環境から想起されるイメージ、農業への誠実な取組から得られる高い品質を基に、市産野菜の価値を高める意識づけを継続して行っていく。

また、農協の系統出荷については当市のほか広域での取り扱いとなるので、十和田市産としての売込みは難しいが、出荷先の県内外、中央の卸売市場の流通段階では、トレーサビリティにより、生産者情報コードが箱に記載されおり、生産者が誰で、栽培方法や農薬の使用内容などを含め十和田市産であるという情報がわかるようになっていると伺っている。

Q 8 : それぞれの産業がどれくらいの外貨を稼ぎ、所得を生み出しているのか経済分析は行っているのか。

A 8 : 経済分析は行っていない。

当市食料品製造業出荷額	:	約310億円	(令和3年)	経済センサス)
当市農業産出額	:	約253億円	(令和4年)	生産農業所得統計)

Q 9 : とわだ産品も、どの産品が他市町村と比べて優位にあるのか経済分析しているのか。

A 9 : 経済分析は行っていないが、生産量日本一である「にんにく」は他市町村と比較し、供給量的に差別化できるひとつの要素であると捉えている。

そのほか、当市の主要産品（ごぼう、長いもなど）も県内有数の産地として供給量では優位性があり、規格外品の利用も含めて大規模に、1次加工に取り組む事業者も増えてきている。

Q10：限られた予算を有効に使うには、「何となく」「あれもこれも」ではなく、何が稼げる産業・産品なのか分析し育てる必要があるのではないか。

A10：当課の使命は市内生産者の所得向上を目指し、特産品の販売促進、地産地消の推進、当市の魅力や産品の知名度向上を担っている。

市として、何が稼げる産業・産品なのかを分析し育てることは、大変難しいものと考えており、関係機関との連携のもと、引き続き生産体制の整備や販売促進に意欲的な事業者・生産者への支援を行うとともに、供給力のある生産品の把握や社会・時代のニーズにあった産品の掘り起こしに努める。

Q11：十和田市産野菜のブランド化・宣伝・普及について、新たな強み、価値の発掘、買い手に訴える事業の方策は。

A11：前述でも記載したとおり、当課としての使命は市内生産者の所得向上であり、産品を活用した販売促進、知名度向上を担っている。

既存の農産物の特徴である土づくりにこだわった生産工程やおいしさ、生産量・供給量の多さなどについて、機会を捉えて発信するとともに、コロナ禍で活動を制限していた「とわだ産品PRキャラクター」を改めて有効的に活用し、継続的に発信し続ける。

また、十和田市産食材をその効能、作用などの観点から捉えられるよう「薬膳料理」での検証を踏まえ、今後の方策のひとつとしたい。

Q12：全国規模の商談会や県内物産展への出展、その成果と課題について教えてほしい。

A12：

成果：7ページ参照

課題：市内加工事業者では、新型コロナを境に商談会や物産展への出展意欲が減退し、ノウハウも中断された事業者が未だ見受けられる。まずは基本的なノウハウを身近な場所で身につけてもらえるよう、今年度の新規事業として市内での商談会を来年2月に予定している。

また、大規模な商談会では、経験不足から出展を躊躇したり、人員不足といった課題があることから、「とわだ産品販路開拓支援事業」において出展の前後に専門のアドバイザーによる個別相談の機会を設けているほか、今年度は販売説明員を補助対象に拡充し事業者支援を行っている。

ありがとうございました。

十和田市

〒034-8615 青森県十和田市西十二番町 6 番 1 号

Tel : 0176-23-5111 (とわだ産品販売戦略課 内線 : 221~225)

農林商工部 とわだ産品販売戦略課

販売戦略係 Tel : 0176-51-6743

FAX : 0176-22-9399

Mail : sanpin@city.towada.lg.jp